

# キャベツ

春キャベツは、冬キャベツに対して腰高の傾向にあり、巻が緩めで葉が柔らかくみずみずしさを感じられます。葉の色も緑が強く、断面を見てもわかるように中の方まで黄緑色から黄色へとグラデーションのように色がついています。

# 11月の農作業

平成15年発行：  
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

## 作型

あまり早まきすると、とう立ちして、大きな玉にならない。  
暑さと乾燥に弱いため、灌水を忘れずに行う。秋まきが作りやすい。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春どり					■	■	■				△		SE・春ひかり

△：植え付け ■：収穫

## 育苗

- (1) ト口箱などに条間5～6cmで、すじ状にまく。
- (2) うすく覆土(5mm)し、鎮圧する。発芽まで新聞紙をかける。
- (3) 発芽したら2cmに間引き、本葉2枚頃、ポットに移植する。(9cmポット)
- (4) 種まき後35～45日位、本葉5～6枚の苗を定植する。  
灌水：午前～日中に行う。追肥は液肥500倍液を灌水代わりに散布。  
床土の作成：1㎡当たり完熟堆肥2kg、BMようりん50g、セルカ150g、野菜専用肥料100g



## 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
<b>元肥 a当たり</b>	
醗酵鶏糞	30kg



本葉5～6枚の頃、丁寧に植える。植える前に灌水をして鉢の乾きを防ぐ。

- ・2条千鳥植え：畝幅120cm
- ・株間30～40cm(条間40～45cm)



## 追肥・土寄せ

- ・定植後30日頃：追肥後、軽く土寄せを行う。
- ・結球開始時期：追肥する  
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a〈春どりは7kg/a〉)

## 防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
アオムシ ヨトウムシ	幼虫を捕殺 防虫網を張る 早期に発見し捕殺する	トレボン乳剤(1,000～2,000倍) 3日前まで3回以内

## 収穫

- ・手で押さえてみて、固くなっているものから収穫する。
- ・長い間畑に放置すると、裂球やとう立ちする。(特に春どり)
- ・先がとがってきたら、とう立ちする株である。  
○春まき：植え付けてから2ヶ月くらい

裏面は冬どり軟弱野菜の防寒対策を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.319 平成29年11月6日発行

# 冬どり軟弱野菜の 防寒対策

## 11月の農作業

平成15年発行：  
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

冬の寒さを乗り切るために、野菜の防寒対策をしっかりと行うことは大切です。

ハウレンソウ、コマツナ、シュンギクなどは、野菜のうちでも低温に強いほうで、気温0℃内外でも生育し、ハウレンソウはマイナス10℃にも耐える性質を持っています。従って、9～10月半ばまでに種まきしたものは、一般平坦地ならとくに防寒しなくても厳寒期に十分収穫できます。

しかし、寒冷地では防寒が必要ですし、一般の地勢でも冬季に枯れ葉のない軟らかな良質品を得るには、防寒対策を講じるのが効果的です。

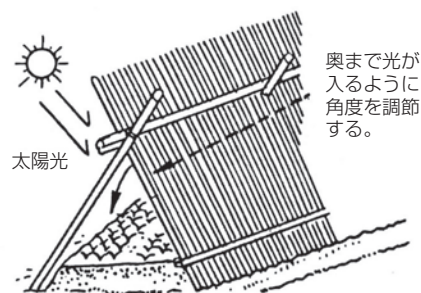
また、計画的にまきどきを遅らせて春先まで収穫しようとする場合にも、防寒が有効です。通常10月下旬以降に種まきするとき、特に効果が発揮されます。

防寒資材としては、昔は竹笹、ヨシズが専ら用いられました。これらが入手できればそれでもよいのですが、今では専ら、べたがけ資材（不織布類）、ネット（寒冷紗）、プラスチックフィルム（塩ビ、農ポリ）などが用いられます。

### ヨシズ覆い

ヨシズは昔からの保温栽培方法で、寒冷紗よりも保温力はすぐれています。

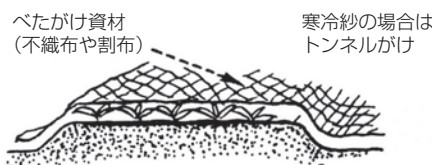
- 栽培床の北側に片屋根式の霜よけをかける。
- 陽光を最大限に取り入れるため、太陽の角度によって屋根の角度を変える。



### べたがけ

簡単な方法としては、寒冷紗や不織布、割繊維不織布などで覆う方法です。低温性のコマツナ、シュンギクなどの露地栽培よりはるかに生育が良く、冬でも良質品のものが得られます。

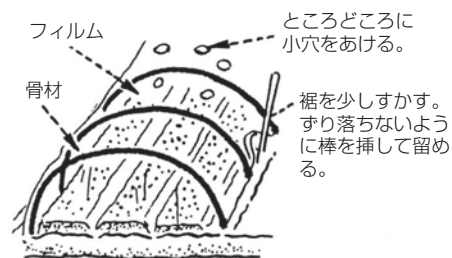
- べたがけは、支柱などを使わず不織布や割繊維不織布などを、直接地面または作物の葉の上に被せる。
- 極めて軽量で通気性が良く、簡単に利用ができます。
- 風に飛ばされないように土や石で押さえるようにしましょう。張り方が緩いと風に揺らされ、かえって作物を傷つけることがあります。



### ビニールトンネル

フィルムをトンネル状に覆えば、日中の温度上昇は格段に良いのでさらに高い保温力を得られますが、日中の温度が上がりすぎると、かえって低温障害を受けやすくなるので、穴を開けたり裾を上げたりして換気することが大切です。早春まきのコカブ、ニンジンなど、春植えの果菜類などの生育が大変促進でき、早どりに有効です。

- トンネル用の被覆フィルムには、ポリエチレンよりも保温力の高いビニールが多く用いられている。
- 暖かい地域や低温性野菜ならポリエチレンでも良い。
- 裾を上げて換気をする場合は、急に冷たい風が入り込んだりしないよう、少しずつめくり上げながら換気を行う。



裏面はキャベツを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.319 平成29年11月6日発行